

平成 23 年 7 月 22 日

7 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木は、丸太生産が価格下落から減少。入荷・集荷は間伐材中心で平年並み。構造材を中心に製品の荷動きが止まっており、製材工場は在庫を抱えたまま資金繰りが悪化し、原木を手当する意欲見られない。中目材は一部で動きはあるものの、全体としては弱い。震災後の新築需要の停滞が原因と見られるが、一刻も早い回復が待たれる。価格は構造材の値下がりが止まらない。特にスギ柱材の 8,500 円/m³は昭和 30 年の市場開設以来最低価格を記録する異常事態。スギ中目材も一段の値下がりで、ヒノキ中目材のみ保合で推移。スギ 3m 柱材の異常な値下がりにより、山元では 4m 造材に変更や、伐採の先送りも見られ出材は減少の見込み。群馬は、国有林材生産の遅れからカラマツ原木が不足。製材工場の操業は低調続く。全県的に仕事が薄めの中で、補助事業による住宅申請は順調。スギ原木は買気なく続落し 8,000 円台/m³の攻防。

2. 米材

5 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 3.5%増の年率 56 万戸。米国丸太は中国の買いに一時の勢いが無くなり、価格は弱含み。カナダ丸太は米国と競合するセカンドグロスが弱含みで、オールドは引続き品薄から強含み。6 月の産地港頭在庫は約 9,200 万スクリブナー(約 44 万 m³)。また、ウェアハウザー社の 7 月積み米マツ IS ソートは先月より多少下げた模様。米材丸太の入・出荷は横這い、在庫は増加傾向。大型港湾製材工場、内陸部製材工場ともに依然低調が続く。一方、製材品の 6 月入荷状況は全般に増加。TLT(東京木材埠頭)は震災後東北方面の荷受が続いており、その分入荷は増加。在庫は入超で増加傾向、特に TLT は在庫急増で満杯状態。カナダ産地情勢はツガ製品が伐採量減少と中国向け拡大のため製材工場が値上げの動き。米マツ KD 製材品は値上げを唱えるシッパーが多い中、今後の日本需要の動向を見据えた交渉。カナダ BC 州で散発的に山火事が発生しており、今後の丸太価格上昇が懸念。

3. 南洋材

サバは雨が多くなり、伐採規制強化も加わり出材状況は悪い。特に、製材用大径材や良材が不足し、消費国からの引合いに対応できない状況が続く。丸太の相場はやや弱含みだが製材品は強含み。サラワクは、サバと異なり比較的好天が続く。このため、出材も順調で、この状況を見越したインド、台湾、中国等の大口バイヤーは丸太の買い控えを唱えたため、今まで強気一辺倒だったシッパーは売り急ぎ価格は10%以上下落した。ただ、良材に限っては絶対量が少ないため相場は横這い。PNG・ソロモン材は、引続き天候不順で出材は減少。シッパーの値上げ要求はあるが消費国の抵抗が強く綱引きの状態。丸太の入・出荷、製材品の入荷は横這い、丸太在庫はやや増加。原木の販売は、合板用・製材用とも変わらず。製材品の販売は、震災関係では予想に反し荷動きは低迷したまま。

4. 北洋材

ロシア極東は6月からアムール材出しが開始。出材の少ないエゾマツ丸太は複数船が日本向けに成約された模様。カラマツ丸太は175\$/m³ (15%減)まで下がったが、シッパーの米マツ丸太へのシフトが予想以上に進み、成約に至っていない。シベリア地方は、夏山造材がスタートしているが、ここ数年慢性的に現地製材工場及び満州里方面の原木在庫レベルが低く、高値安定の相場。富山港・富山新港の6月丸太入荷は、25,169 m³ (アカマツ 9,709 m³、エゾマツ 15,460 m³)と先月比81%増。一方、製品は10,874 m³で先月比12%減。港入荷量は増加したが製品の売れ行き悪く、原木・原板とも荷動き悪い。在庫は3~4ヶ月。価格はアカマツ丸太は横這いでエゾマツは値下がり。製材品は弱含み。国内製材工場は、アカマツ、エゾマツの原木、原板とも不採算。稼働状況は採算合わず生産調整が続く。

5. 合板

合板用国産材丸太は、被災工場分向けの原木が残存メーカーへ集中したことから、各メーカーの在庫は潤沢な様子。外材丸太は引続き他国向けへの需要が盛り上がり弱含みの展開。5月の国内の合板生産量は18.8万m³で、うち針葉樹合板は16.3万m³ (対前年同月比88%)と大型連休の影響もあり前月より若干減少。出荷量は6.9万m³ (同90%)と2ヶ月連続で生産量を上回り、在庫は7.8万m³まで減少し、市場でのタイト感は拭えない状況。販売価格は、国産南洋材合板メーカーは輸入合板増加の影響が大きく、品目によって調整しているが、一般ルートでの引合いは低調。針葉樹合板は東日本のメーカーは節電の影響で今

後値上げの可能性との見解だが 7 月は現状価格を維持する方針。国産南洋材合板は、輸入合板の増加の影響で荷動きは低調。一方国産針葉樹合板は、依然不足感は解消せず、メーカーからの配給制が続き、市場での手当ては窮屈の状態。輸入合板は、順調な入荷量を背景に一部品目では需給バランスが崩れ気味で、月末にかけて軟調だったことから市場での買い控えは顕著となり悪循環の状況。輸入合板は 5 月の入荷量が大方の予想を上回り、川上では売り急ぐ姿勢も一部見られたが、4 月以降の産地との成約が減少傾向なことから、冷静な対応をしており、今後も品目ごとに保合の展開が続く見通し。5 月の輸入量は 43.4 万 m³ (対前年同月比 163%) と大量入荷となり、主要 3 カ国とも今年最高を記録した。特に、中国は 10.2 万 m³ (同 194%) と増加が顕著。6、7 月ともに 12mm 中心に高水準な入荷は続くとの見方は多く、需給が見合うのは秋口頃の見通し。

6. 構造用集成材

欧州ラミナは現地夏休み前に出荷していたものが順調に入荷している。最終製品の出荷が伸び悩んでいることから、メーカー各社とも契約済みの入荷を遅らせるため船積みを延期している。国産集成材の受注は、やや弱く 7 月に入り上向き。販売、荷動きも 7 月に期待。在庫はやや増。価格は第 3 四半期の契約が 8 月から交渉に入る。輸入集成材は値上げの動きがあるものの、販売先ごとの価格交渉となる様子で、実契約価格は未定。7 月は住宅エコポイント終了の駆け込み需要で大手ハウスメーカーを筆頭に上棟は上向きだが、地方工務店は苦戦している状況。

7. 市売問屋

国産構造材は、スギ、ヒノキともに動きは極端に悪く、製品単価も軟調。外材は WW 集成管柱、RD 集成平角、米マツ平角いずれも動き悪く相場も弱含み。造作材は、国産材では建築用、建具用ともに低調。外材では、スプルース、ピーラー良材はマンション内装用としてまずまずの動き。5 月中旬以降荷動きが全般に失速状況。市場への買方来場も少なく販売に苦戦。7 月末に終了する住宅エコポイント制度の前倒し着工を期待したが、どうやら空振りに終わりそう。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギ KD 柱、小割変わらず。ヒノキ KD 柱変わらず。外材は、米ツガ KD 平割、正角 KD 変わらず。ロシアアカマツ変わらず。WW、RW 集成材は梁、柱とも弱保合。合板は、針葉樹、ラワンともに不足感無く保合。針葉樹合板の長尺物は入手時間かかる。不足していた断熱材関係も正常に戻り、品不足は解消。プレカット工場は、見積、加工とも順調だが、相変わらず町場

の仕事は少ない。全体的に仕事は甘く、早くも夏休みの雰囲気。県産材使用の官公庁の見積もりがあり国産材の需要拡大に繋がればと期待。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)